

チーム美らサンゴ祭り 恩納村で開催

10月23日恩納村コミュニティセンターで、村内の小学生らを主な対象とした「チーム美らサンゴ祭り」が開催された。一般のレジャーダイバーの手によるサンゴの植え付け活動をきっかけに2004年に発足した「チーム美らサンゴ」だが、2006年からはノンダイバー向けのプログラムも加わり、さらに沖縄県内でシンポジウムを開催するなど啓発活動にも力を入れてきた。植え付け活動は恩納村漁協の養殖・植え付け技術に基づいて行われてきたが、地元の子供たちにサンゴのことをもっと知ってもらいたい、海のすばらしさを実感してほしいとの思いから、今回初めて「サンゴ祭り」が開催された。

「サンゴは石?生きもの?」「サンゴがいるのは浅いところ?深いところ?」「東京湾にサンゴはある?ない?」といった会場参加型のクイズに始まり、豊かなサンゴの海を守るため&取り戻すためにできること、そのためのチームの活動が紹介された。そして、琉神マブヤーショーで会場のテンション

美らサンゴ祭りの翌日(10月24日)には、ダイバーによるサンゴの植え付けが行われた。66本のムギノホドリシが万座湾内に植え付けられた



01, 完成したサンゴ苗にはタグが付けられるので、その後どのエリアに植え付けられたかもわかる



02, スタッフのサポートを受けながら、子供たちが苗作りに挑戦



03, 東京の小学生がメッセージを書き込んだ色鮮やかなプレート 04, 楽しみながら学べる、二択のサンゴクイズは全部で10問 05, 「琉神マブヤー」は、沖縄で大人気のオキナワヒーローだ (写真01 ~ 03=編集部)

ンが一気に盛り上がったところで、子供たち1人1人が貝殻や流木などを使ったフォトフレーム作りや、サンゴ片をプレートに固定する苗作りを体験した。

今回使われたプレートは、あらかじめ東京都大田区内の3つの小学校で生徒たちが思い思いのメッセージを書き込んだもの。そのプレートに恩納村の子供たちがサンゴ片を固定し、苗となった。ゆくゆくはダイ

バーたちが海に植え付ける予定だ。1つ1つは小さな苗だが、多くの人たちの「美ら海を大切にしたい心」が込められている。

10月18~29日には、名古屋でCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が開催されていた。193の国と地域から1万人を超える人が集まり、世界全体で生物の多様性を守ることにについて白熱した議論が交わされた。サンゴ礁の海は、海洋の中でもとりわけ生物の多様性が高いが、開発行為や地球温暖化等の影響で各地からダメージが報告されている。恩納村でのこの取り組みがモデルケースとなり、サンゴの海が着実に再生し、「美ら海を大切にしたい心」が1人でも多くの人に広まること、これからますます期待されている。

「チーム美らサンゴ」発足までの経緯とふりかえり

- 1972年 前兼久・恩納地先で恩納村漁協がハマサンゴを移植
- 1989年 漁協青年部がサンゴを移植
- 1992年 万座ビーチホテル&リゾート(現ANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾート)で調査・移植を実施
- 1998年 サンゴの白化現象が世界的に起こり、恩納村でも大きなダメージを受ける。漁協がサンゴ養殖を開始
- 2002年 NPO法人沖縄観光産業研究会が発足し、サンゴ保全を検討
- 2003年 漁協がサンゴ養殖施設を設置、サンゴ植え付け活動開始
- 2004年 チーム美らサンゴが発足(発足当時は沖縄県内外8社の集合)

*これまでの植え付け本数・参加者数

年	実施回数	参加人数 (ダイバー/ノンダイバー)	植え付け本数
'04年	7	254/0	391本
'05年	8	154/0	154本
'06年	10	224/36	224本
'07年	11	285/94	285本
'08年	4	190/42	217本
'09年	8	85/64	229本
合計	48	1192/236	1500本

チーム美らサンゴプログラムの お申し込み・お問い合わせは

NPO法人
OSI(沖縄観光産業)研究会
☎098-891-8072(代)
☎098-891-8073
(9:00~18:00日祝祭日除く)まで

活動に関する詳細は

➡ www.tyurasango.com

チーム美らサンゴ2010参加団体一同



後援: 沖縄県、恩納村 協力: 恩納村漁業協同組合・NPO法人OSI(沖縄観光産業)研究会、サンシャイン国際水族館